

数年前のある火災でのでき事である。私の父は、ガス関係の仕事を職業としている。その日も夕食の終わった後、家族だんらんでみんな笑いながらテレビを見ていたしばらくすると、突然、パトカーと消防自動車のサイレンの音が、暗い夜空の中に響きわたった。すぐ、市役所の火災の放送がはいり私の家の近所だとわかった。その放送を聞いた父は、急いで外に飛び出し、どの家か確かめた。息をはずませて戻ってきた父は、急いで、会社の人達に電話で連絡した。父は、電話機を置くなり、すぐに作業服に着がえて、火事の現場に向った。ガスの二次災害を防ぐためにだ。私も、母や兄と外に出て、見守った。外は身震いするほど寒く、北風が激しく吹きまわっていた。近所の人も心配そうに見たり、あわただしく走っていく人もいた。その間にも、火は風に吹き上げられ、勢いにのってどんどん燃え広がり、火の粉は回りの家々に降りかかっていた。消防車が何台も走り、市役所の火災のサイレンがウーウーと無気味に鳴り続けていた。その間も、会社の人達や、父は、ガスボンベを、いくつも安全な場所まで運んでいる。その後、近所の家を一軒一軒見回ってボンベの元センを閉めて、チェックをする。時にはとても危険な場合があるそうで、仕事が無事

に終わるかとても心配だった。その家は母家は燃えずに、倉庫が燃えているということであった。火事現場の近所の人達が避難しはじめていたそれから1時間ぐらいたって、父たちが、顔や着ていまるものをして、ぐまっ黒にったりしきた。母としたよ苦労さまと、出む小学生のだ、体のまらなか「もう、たの。」ど消えただ火がくいるよ。」さん、どんなにましている「10キロのボンベを運んだら、消防のポンプの水がかかったり……大忙しだったよ。」



防火作文

ある日のでき事から

市長賞

富士中二年 伊奈明美

といて、父は風呂場に行った。父の後ろ姿を見て、私は、今さらながらに、父の仕事の重要さを見直すと同時に、ガスの便利さと恐しさを思わずにはいられなかった。近所の家が類焼しなかったのは不幸中の幸いだった。もし、そういう

ことになっていれば、大混乱になり、けが人まで出てしまうかもしれない。火災は、ちょっとした不注意から、取り返しのつかないような事まで、展開してしまうとっても恐いものだ。富士市の火災原因のトップは「タバコの不始末」と「子どもの火遊び」で、火災発生総数の4分の1を占めている。特に「ちょっと寝ながら、一プク」という場合が、よくないそうだ。「ちょっとした不注意でした。」では、許されなくなってしまう。そんな甘い考えでは通用されないのは、だれもが知っているはずだ。私の家でも、寝る前や外出の時など、必ず火の元、ガスの元セン電気のコードを確認し、風呂とバケツに水を入れておく。このごろは、私も、それを確かめないと不安なのだ。それぞれの家で、いろいろ工夫して、防火につとめて、基本的なことをしっかり守ること、つまり人間として、責任をもつこと。そうすれば、火事はもちろん、他の事も、もっと防げるのではないだろうか。ひとりひとりが気をつけて、「うっかり」や「ちょっと」という甘えをすて、「火の用心」をしっかりとすれば、火事はもっと減り、一年0件ということにもなるだろう。

5月の当直医



休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。当直医院は急病のときだけご利用ください。

- 5月7日
- 外科 中央病院(本市場 61-8800)
- 秋山医院(富士岡 34-0075)
- 産婦人科 吉見医院(吉原4 52-2399)

- 5月14日
- 外科 宮下医院(平垣 61-0376)
- 石川医院(浅間本町 52-1985)
- 産婦人科 鈴木医院(今泉1 52-1712)
- 5月21日
- 外科 川村医院(富士中島 61-4050)
- 芦川病院(中央町2 52-2480)
- 産婦人科 池谷医院(水戸島本町 61-0873)
- 5月28日
- 外科 田辺医院(本市場 61-8410)

- 渡辺病院(錦町1 51-3751)
- 産婦人科 池田医院(石坂 21-2228)
- ※内科、小児科は富士医師会が「医療センター」で行っています。診療時間は午前9時から午後5時までです。ただし受付時間は4時30分までです。医療センターでは、日曜祭日以外は行っておりません。医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2(長者町)」電話は52-3104です。